

備前市施策評価シート

(平成18年度事業)

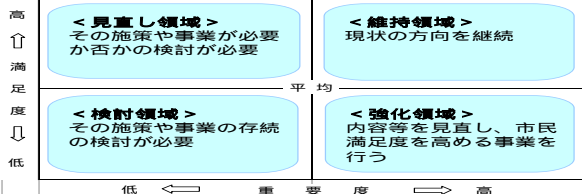
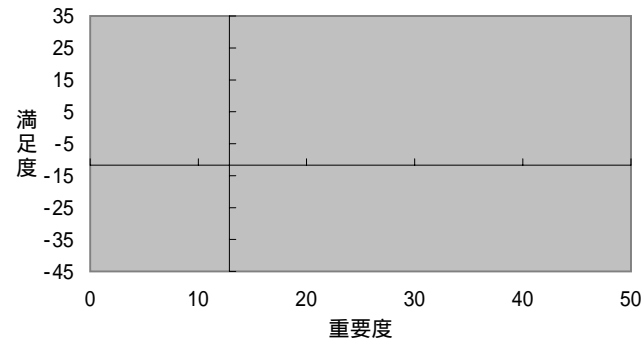
施策名 (小項目)	高等学校	コード	作成者	役職	教育総務課長
		03-01-03		氏名	山本 健次
				電話	64-1802

備前市総合計画の内容から記載する

施策の体系	大項目(基本目標)	地域文化と人が輝くまちづくり
	中項目(基本施策)	未来を支える人材を育むまちづくり
施策の対象と目的 (誰のために、何のために)	多様なニーズや目的をもった生徒に対応し、生徒の特性に応じたきめ細かな教育を提供するために、ソフト・ハードの両面での教育環境の充実を図る。	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	片上高等学校が担ってきた「勤労青年に対して高等学校教育を施す」という役割は、しだいに薄れてきている現状がある。近年、入学者数は増加傾向にあり、多様な教育的ニーズをもつ生徒を受け入れてきている。そのため、生徒一人一人に応じたきめ細やかで多様な教育を提供するとともに、教育環境を整備する等、学校へ人的・物的支援を行う必要がある。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある学校づくりの推進 個に応じた教育の充実 	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H19	H20	H21
重要度(%)			
満足度(%)			



調査結果に対するコメント、市民の反応等	東備地域唯一の定時制高校として、様々な志望動機を持った入学者も増加しており市民ニーズは高い。
調査対象でない施策の場合は、市民の反応等	

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	評価年度		目標値		ベンチマーク	指標の説明	
		H17	H18	H23	H28			
1 定員充足率	目標	%	60.0	60.0		70.0	80.0	在籍者数/学校定員数
	実績	%	62.5	60.0				
	達成率	%	104.2	100.0				
2 入学時生徒数に対する卒業時生徒数の割合	目標	%	90.0	90.0		90.0	95.0	中途退学者数/在籍者数
	実績	%	84.0	62.0				
	達成率	%	93.3	68.9				
3	目標							
	実績							
	達成率	%						
4	目標							
	実績							
	達成率	%						

施策構成事務事業の評価

担当課長評価

施策を構成する事務事業名	事務事業評価結果 A~E (高~低)	細事業一覧表	事業分類	事業費(単位:千円)						優先順位 その他
				H17		H18		H19		
				直接事業費	人件費	直接事業費	人件費	直接事業費	人件費	
1 定時制高等学校管理運営事業	D	定時制高等学校管理運営事業	維持管理	8,080	10,395	11,156	10,430			
2 定時制高等学校教育振興事業	C	電算機借上事業	ソフト事業	0		3,018	3,011			
		教材備品整備事業	ソフト事業	93		169	168			
		図書整備事業	ソフト事業	52	3,760	61	61			
		全国大会出場補助事業	ソフト事業	115		15	15			
		就学奨励事業	ソフト事業	-		0	0			
3 定時制高等学校運営支援事業	B	高等学校教育研究部支援事業	ソフト事業	20		20				
		県高等学校教育研究会負担金事務	内部管理	17		17				
		全国定通校長会費事務	内部管理	6		6				
		県高等学校定時制通信制教頭協会費事務	内部管理	10		10				
		全国教頭会費事務	内部管理	5		5				
		県教頭会費事務	内部管理	2		2				
		教科書給与補助事業	ソフト事業	305	2,290	273	1,080			
		県高等学校体育連盟負担金事務	内部管理	21		22				
		部活動支援事業	ソフト事業	20		20				
		高等学校運営事業	ソフト事業	72		54				
		県高等学校定時制通信制教育振興会負担金事務	内部管理	65		65				
		全国定時制通信制高等学校長会定通部会費事務	内部管理	3		3				
		全国高等学校給食協議会運営支援事業	内部管理	1		1				
校内研修支援事業	ソフト事業	0		0						

この施策に要した費用(人件費込、単位:千円)

	H17	H18	H19
	25,332	29,682	

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	その説明

施策の評価

項目	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い			
	一次評価		二次評価	
	評価	判断理由	評価	判断理由
1 目的達成度	3	中途退学者の率が上昇している。学習目的に応じた教育を一層推進する必要がある。	3	市民ニーズの具体的な指標として、全校生徒数に対する市内在住者の在籍率を指標に加えてはどうか。
2 事業構成の適当性	3	パソコン整備、教材備品の補充等が図られているが、教育内容充実のための事業が少ない。	3	同左
3 施策の有効性	3	東備地域唯一の定時制高校として大きな役割を果たしている。今後とも多様なニーズに対応した事業を展開していく必要がある。	3	勤労青少年に学習機会を提供するという当初の目的から、近年、様々な動機を持つ入学者が増加している。これらの傾向を踏まえた事業展開が必要ではないか。
今後の展開・協働の可能性・事業の見直し等の担当への指示	定員充足率が下がり、中途退学者数の割合が上がっている。特に、中途退学者の率の増加が一時的なものかどうか、何に起因するのか調査し、今後も率が上がるようであればその対策を講じる必要がある。いずれにしても、今後、多様化する生徒のニーズを、的確に把握し、教育内容とともに、魅力ある学習環境を提供していく必要がある。		東備地域唯一の夜間定時制高校として大きな役割を果たしているが、全校生徒に占める市内の在籍生の割合が低い。市立高等学校として存続させていくべきか検討していくことも必要ではないか。	
二次評価者コメント	生徒のニーズに沿った学校運営を維持していくためには、これ以上の削減は困難である。		平成20年度 予算の方向性 前年度並みの配分	
役職 教育次長 氏名 山本 健次				